

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

ご家族おそろいで、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

冬休みを終え、園庭には子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに会う子どもたちの瞳は、新しい一年への期待でキラキラと輝いているようです。

さて、今年の干支は「午(うま)」です。この字は、一説によると、餅つきの「杵(きね)」の形に由来するとも言われています。そう考えると、杵で何度もついて、少しずつ粘りを増していくお餅の様子は、日々の生活の中で一歩ずつ、根気強く育っていく子どもたちの姿と、どこか重なって見えてきます。

近年、教育・保育の現場では、知識や学力だけでなく、「自制心」や「やり抜く力」、「意欲」といった、目に見えにくい力(非認知能力)が、将来の土台としてとても大切だと言われるようになりました。こうした力は、大人が教え込むものではなく、日々の遊びや生活の中で、子ども自身が試行錯誤しながら身につけていくものです。

たとえば、園生活の中には、こんな場面がたくさんあります。

- 友だちと遊ぶ中で、ケンカをしたり仲直りをしたりしながら、自分の気持ちを調整していくこと。
 - ルールを守ることの大切さに、少しずつ気付いていくこと。
 - 失敗しても繰り返し、何時間もかけて泥団子を最後まで完成させようとする事。
 - ストライダーで山から滑り降り、転んでも再び立ち上がって挑戦しようとする事。
 - けん玉の技を繰り返し練習し、「どうしたらうまくいくかな」と考え、何度も試行錯誤していくこと。
- など。

こうしたことを、遊びの中で楽しみながら経験していくことこそが、保育(幼児期の教育)の大きな特徴だと考えています。特に、子ども同士の「ケンカやトラブル」も、私たちは大切な学びの機会だと考えています。思い通りにならない葛藤の中で、自分の気持ちを折り合わせたり、相手にも理由があることを知ったり、どうすればまた一緒に遊べるかを考えたりする。こうした経験の積み重ねが、将来、困難に出会ったときに自分を支える「強い根っこ」になっていきます。安易に大人が引き離すのではなく、子どもたちの心の揺れを丁寧に支え、見守っていきたいと思っています。

こうした力は、生涯にわたって育ち続けるものですが、人格の土台がつくられる「今、この乳幼児期」だからこそ、特に豊かに育つとも言われています。「あとからでもできる」ではなく、「今だからこそ育つ」かけがえのない力があるのです。

その大切な時間をお預かりしている責任を胸に、午年の今年も、お餅のような粘り強さと、馬のようなしなやかさを大切にしながら、子どもたち一人ひとりが自分の足で未来へ進んでいけるよう、職員一同、日々の保育に丁寧に向き合っています。

本年も、からたちこどもえんの保育へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。